

篠塚漁港（愛媛県上島町）

●地域の特徴

上島町は、愛媛県の東北部、広島県境に位置し、瀬戸内海のほぼ中央に浮かぶ7つの有人島と18の無人島、25の離島で構成され、江戸期には、港を中心として商業や廻船業で大いに賑わった地区である。魚島地区は、古くから漁業の村として発展し、明治中期からは韓国出漁の歴史もある等、漁業中心の島である。

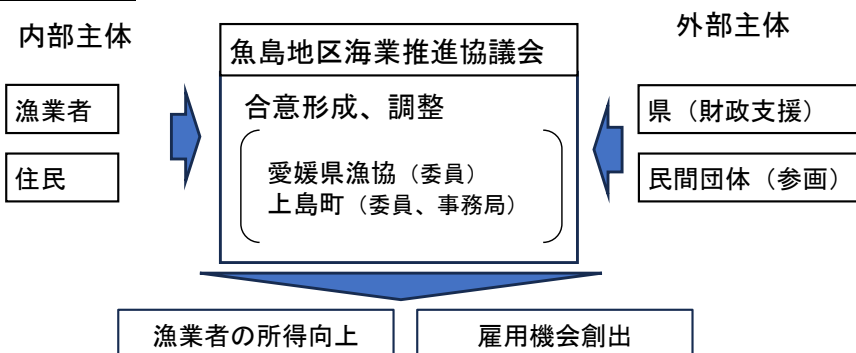
●取組に至った背景

- ・魚島では、小型底びき網、小型定置網、たこつぼ等の漁業が営まれている。高齢化と就業者の減少に直面している。
- ・一方、新たな取組として、小型定置網では、大手回転寿司チェーンとの連携による販売・蓄養事業、漁村体験を中心とした大学生の研修の受入に取り組んでいる。
- ・上記を背景に、体験漁業や企業研修を受入れていく目的で、宿泊施設の確保（古民家や既存施設）と漁港内の定期船・漁船・PBの利用調整を前提とした体験活動の促進に向けた浮桟橋整備を検討した。
- ・大手回転寿司チェーンの定置網操業、従業員教育研修や学生研修、PB受入における活用を念頭に、漁港施設等活用事業の活用を検討した。

●取組の概要

- ・活用類型：宿泊・体験・企業研修・学生研修
- ・立地特性：地方・過疎地・離島
- ・施設の状況：老朽化施設を活用・新たな施設を整備
- ・活用施設：岸壁・水域
- ・取組内容：定置網見学や魚料理体験等の漁業体験を軸にその漁業体験を支える関連事業として宿泊・研修受入・PB受入

●実施体制



●活用推進計画の概要

- ・計画策定（予定）日：令和8年度（予定）
- ・実施（予定）期間：30年間（予定）
- ・漁港管理者：上島町
- ・事業目的：交流促進、地元水産物の消費増進
- ・事業概要：宿泊施設と連携し、浮桟橋を整備することで、企業や大学生向けの研修、PBの受入れを行う。加えて、研修に対する調理講習、飲食提供を通じ、水産物の消費推進も図っていく。

位置図

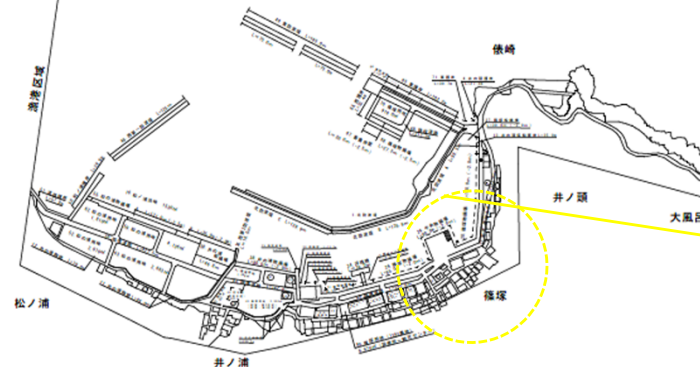


篠塚漁港

第1種 篠塚漁港実測平面図

漁港区域

S= 1 : 2000



期待される成果・効果

（定量的効果）

- ・施設稼働率（観光センター）：休止から再開（年間稼働率0日⇒72日計画）、年間来訪者480名計画、新規雇用者数3名

（定性的効果）

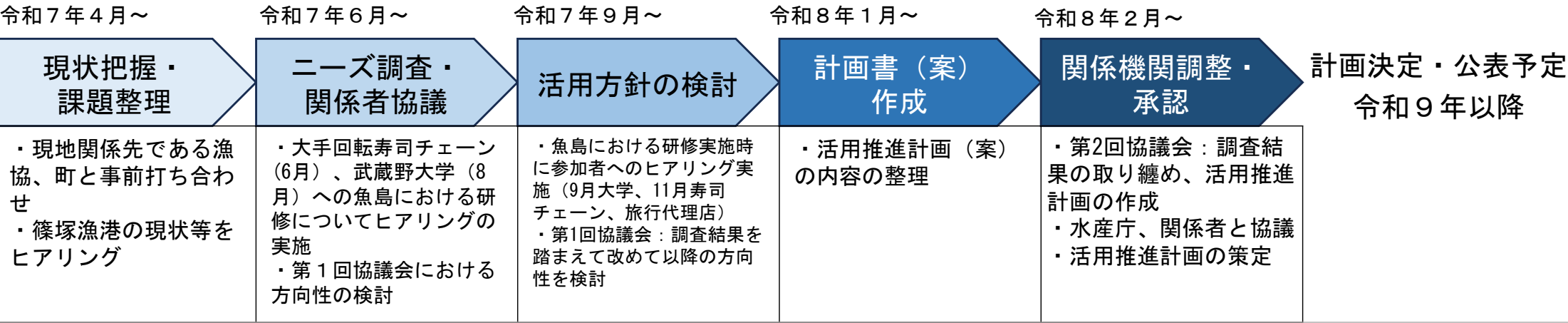
- ・定置網漁業のブランド化、水産業への好影響、新規就業者確保等

篠塚漁港（愛媛県上島町）

●参考情報

- ・水産庁 漁港施設等活用事業の推進に関する手引き（案）
- ・先行実施されている漁港における「活用推進計画」や実践内容

●活用推進計画策定のプロセス



●合意形成・関係者調整

基本的には協議会にて意見交換、合意形成を図り進めた。小型定置網で連携する企業とは、本社、現地にて協議を行うほか、従業員研修を実施した。教育機関とは、担当者との意見交換、学生受け入れ（調理体験等）を実施した。旅行代理店担当者による企業研修への参加を行い、今後の可能性について検証を行った。

- ・関係者の範囲：愛媛県漁協、民間事業者（大手回転寿司チェーン）、地元自治体、教育機関（大学）、住民等
- ・調整のために行ったこと：教育研修（料理体験、釣り体験等）、企業研修（乗船体験、料理体験等）、協議会

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・計画策定をする上での困難だった点：連携している民間企業は、従業員の産地研修事業には積極的であった。また、消費者向け産地送客キャンペーン等の提案もあり、様々な海業を通じた継続的な連携の可能性がある。一方、上場企業ということもあり、資産保有等一定の制約のある事業もあるため、連携内容や条件を一つ一つ確認していく必要があった。
- ・海業を実施していく上で現在の課題：もともと小さな離島であるため企業研修や教育研修受入れのキャパシティには限界がある。漁協では、宿泊研修の可能な施設として、古民家改修あるいは町有の既存施設（指定管理）の活用を検討しており、ポンツーン整備とその管理とあわせ、海業に関連する施設の管理体制の構築が大きな課題である。
- ・今後の展開：大学、企業との連携を強化し、宿泊施設やポンツーンの稼働率を確保できるようにしていく。

●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・取組を始める際に重要だったこと：連携できる企業との関係の構築
- ・事前に把握しておけばよかったこと：海業に利用できる公共施設（本地区では、魚島観光センター）の情報の共有。役場の施策・担当が違う場合もあり、漁協など海業の実践側では利用可能性に思い至らないことがある。
- ・成功のポイント・失敗から学んだこと：企業、役場とのコミュニケーションが重要。